

講座の趣旨

皆さん、学生と市民のための公開講座へようこそ！

専修大学法学研究所では、一昨年から2年間にわたって、「法律学と政治学の^{フロントライン}最前線」と題する公開講座のシリーズを開催し、多くの方から、幸いにして好評で迎えられました。この経験を活かして、今年度からは新たに「現場からの法律学・政治学」のシリーズを開始します。

法律学も政治学も、生々しい「現場」との多くの接点を持っています。学術的な研究が「現場」で起きている諸問題から示唆を受けることも多くあります。また、研究がそれらの諸問題を解決するための何らかの示唆を「現場」に提供出来ることもあるでしょう。「現場」と研究とのそれぞれの立場が交流し合うことは、それぞれにとって極めて有意義であるに違いないと私たちは考えました。

このような考えに基づき、今年度から開始する新しい公開講座では、それぞれの「現場」の第一線で実際に活動しておられる方からご報告を頂き、「現場が直面しているこれらの問題について、研究者はどのように考えるのか？」と問いを投げかけて頂きます。そこで提示された課題について討論することを通じて、「現場」と研究との接点を探っていきます。

私たちの社会には、多くの困難な課題が山積しています。テレビや新聞などで、それらの報道に接しても、一体どこに問題の本質があるのか、我々はどういう視点からその問題を考えたらいいいのか、途方に暮れることも少なくありません。しかし、私たちはそうした困難な課題から目を背けるのではなく、粘り強く、それに向き合っていかななくてはなりません。この講座では、そのような積極的な取り組みのための手がかりを皆さんに提供したいと考えています。